

テーマ：患者に優しい病院内受診科の案内

■ 背景

大学病院など規模の大きな病院では、外来患者が検査や診療のために1日に複数の科を受診することは珍しいことではない。そのため患者さんの中には、次にどこへ行けばよいか分からなくなる人もいる。例えば、下記は周術期外来で来院されたAさん(92歳)のある日の予定である。



9:30～採血@6F糖尿病内科



10:00～栄養指導@2F栄養治療部



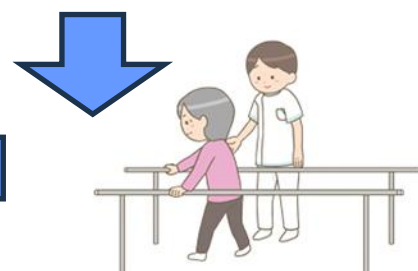
10:30～MRI測定@1F放射線科



12:00～薬処方@薬局 1F



11:30～診察@糖尿病内科6F



11:00～リハビリ@2Fリハビリ室

入院患者でも看護師が目的の科への送迎を行うことがあり、手間を取られることになる。

〈出典：看護root〉

■ 課題とアイデア例

- ・受診票にはその日の予定が記載されているが、病院は広く迷路のようになっているため受診先がわかりにくい。
- ・増築などにより複数の建屋がある場合、渡り廊下がない階がある。また高層用と低層用エレベータを間違えると目的科に辿り着けないことになる。
- ・受診先の案内アプリ開発は1つの手段だが、スマホを持たない高齢者が置き去りとなる。
- ・多くの病院では1Fに案内受付があることが多いが、他のフロアには必ずしも整備されていない事が多い。忙しそうに働いている医療スタッフには声をかけずらい人もいる。
- ・安価なリストバンドに案内機能が組み込めないか。

■ 市場性

300床以上の病院は全国に約1,300施設ある(令和4年度厚労省調査)。1日当りの受診者数のうち、80歳以上が占める割合は外来患者の27%、入院患者の37%と報告されている(令和2年度厚労省調査)。本学附属病院においても令和5年度の外来患者数は1,273人/日、入院患者数は497人/日であることより、困っている患者は潜在的には多く存在すると考えられる。

■ 看護部のホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>